

国語科学習指導略案

1年1組 23名 指導者 岡留真吾

本授業では、以下の検証を行うものである。

- 単元の導入において、動物のクイズ大会を行うために必要な3領域の学習を意識し、意欲と見通しをもって主体的に学習計画を立てることができたか。

1 教材 「いろいろな くちばし」

2 指導計画 (総時数8時間)

過程	主な学習活動【評価規準】	時間
課題をつかむ	1 単元の見通しをもち、学習のめあてと計画を立てる。 【関：クイズ大会を行うまでに必要な「読む」「書く」「話す・聞く」学習の必要性に気付き、意欲と見通しをもって、学習計画の柱を立てている。】	1 (本時)
情報をもとに読み取る	2 クイズを作るために、教材「いろいろなくちばし」の内容の大体を読む。 【読：写真を手掛かりに、説明文の「ヒント」「問い」「答え」「説明」「食べ物のこと」という構成に気を付けて、内容を理解している。】 【言：文末表現、接続語、指示語の使い方を理解している。】	3
主体的に表現する	3 シギのくちばしについて、クイズ作りをする。	1
	4 自分が調べてみたい動物の各部位についてクイズ作りをする。 【読：クイズを作るために、必要な図鑑や本を選んで読んでいる。】	1
	5 作ったクイズを発表する練習をする。 【話：写真や絵を持ったり、指し示したりしながら、適切な声量や速さで話している。】	1
	6 クイズ大会を行う。	1

3 本時 (1/8)

(1) 目標

単元の見通しをもち、学習のめあてと計画を立てることができるようにする。

(2) 評価規準

クイズ大会を行うまでに必要な「読む」「書く」「話す・聞く」学習の必要性に気付き、意欲と見通しをもって、学習計画の柱を立てている。 【国語への関心・意欲・態度】

(3) 指導に当たって

導入の段階では、教師が作った動物クイズを提示し、動物の体の各部位の違いに興味・関心をもたせるようにする。動物の体の部位が動物によって異なることに対する子どもの思いや考えを大切にしながら、どんな学習を進めていきたいのかを考えさせ、学習のめあてと計画を立てる必要性に気付かせていく。

展開の段階では、動物の目、鼻、口、つ、しっぽなどの各部位の違いを紹介し、動物の体の各部位には、それぞれいろいろな秘密がありそうだということに気付かせ、「動物のクイズ大会をやってみよう」という意欲を高め、学習のめあてを立てるようにする。また、昨年度の1年生が行ったクイズ大会の様子をビデオで視聴し、クイズ大会のおおまかなイメージをとらえることができるようにする。発表した子どものクイズの内容を学習ボードで紹介し、「問い」と「答え」というクイズの構成の概略に気付かせることで、「～すれば、できそうだ。」という見通しをもたせる。学習のめあての設定では、相手意識、目的意識をしっかりともち、後の学習計画の柱に結び付けられるようにする。

学習計画の柱を立てる際には、「クイズの作り方が間違っている発表」「好きな動物のことを調べていない発表」「話し方に課題がある発表」を教師が演じ、課題に気付かせる。そして、クイズ大会を行うまでに必要な「読む」「書く」「話す・聞く」学習の必要性に気付かせ、意欲と見通しをもって、学習計画の柱を立てさせるようにする。「読む」「書く」「話す・聞く」学習の必要性に気付いている子どもには、何のためにそれらの学習をするのか、その理由を学習計画表に記入させる。「読む」「書く」「話す・聞く」学習の必要性に気付いていない子どもには、絵カードを使って考えるようにさせる。


その後、子どもたちが考えた学習の柱を基に、「読む」「書く」「話す・聞く」学習の順序や大体の時間数を「はなのみち」での学習経験を生かして、教師と一緒に話し合い、全8時間分の学習計画を立てさせるようにする。その際、本時から好きな動物のクイズ作りまでの日程に着目させ、自分の調べたい動物の図鑑や本を並行して読んでいく必要性にも気付かせるようにする。

終末では、子どもたちが単元の見通しをもち、学習計画を立てることができたことを賞賛するとともに、他の学習においても活用できることを知らせる。また、いろいろな動物の図鑑や本を紹介することで、読書に対する興味・関心を高めるようにする。




時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価
(分)	導入	<p>1 教師の動物クイズを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビーバーのしっぽの形は平べったい。 ・どうしてそんな形をしてるのかな。 ・わにのしっぽは、とても大きいよ。
5		<p>2 本時の学習のめあてと進め方を確かめる。</p> <p>がくしゅうのめあてとけいかくをたてよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな学習をするのかな。 ・動物のことをもっと知りたいな。
35	展開	<p>3 クイズ作りの概略を知り、単元のめあてを決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・去年の1年生は、上手に発表しているな。 ・「問い」と「答え」が大事になるんだな。 ・ぼくたちも動物のクイズが作れそうぞ。 ・わたしたちも動物クイズ大会をしてみたい。 <p>どうぶつのくいずたいかいをして、どうぶつのひみつをともだちにおしえよう。</p>
		<p>4 クイズ大会までの学習計画の柱を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズができて声も小さかったら、みんなに伝わらないよ。 ・自分の好きな動物のクイズを作らないと、みんなの前で発表できないよ。 ・クイズになっていないよ。クイズの作り方を勉強しないといけないね。
		<p>5 クイズ大会までの学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話す練習は、クイズ大会の前の時間だよ。 ・クイズの作り方の学習をした後に、自分の好きな動物クイズを作るんだよ。 ・今日から早速図鑑で調べていこう。
5	終末	<p>6 学習の成果を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クイズの作り方、クイズ作り、話す練習の学習をしていけば、クイズ大会ができそうだね。 ・「問い」と「答え」に気を付けて、みんなが分かりやすいクイズを作っていくことが大切だね。
		<p>7 次時の学習への期待感をもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次はみんなに分かりやすいクイズを作るために、「いろいろなくちばし」を読んでいくぞ。 ・早くクイズ大会をしたいけど、その前に、自分で本を探して、好きな動物のことについて調べないといけないな。

動物の体の部位が動物によって異なっていることに対する子どもの思いや考えを大事にし、どんな学習を進めていきたいのか、学習のめあてと計画を立てる必要性に気付かせていく。



昨年度の1年生が行ったクイズ大会の様子をビデオで視聴し、クイズのおおまかなイメージをとらえさせる。また、発表したクイズの内容を学習ボードで紹介し、「問い」・「答え」というクイズの形式に気付かせることで、「できそうぞ。」という見通しをもたせ、「やってみよう。」という意欲を高めるようにする。


3領域に気付かせるために、「クイズの作り方が間違っている発表」「好きな動物のことを調べていない発表」「話し方に課題がある発表」を教師が演じ、課題に気付かせる。



※ クイズ大会を行うまでに必要な「読む」「書く」「話す・聞く」学習の必要性に気づき、意欲と見通しをもって、学習計画の柱を立てている。(ワークシートへの書き込み・子どもの様子観察)

- 「読む」「書く」「話す・聞く」学習の必要性に気付いている子どもには、何のために、それらの学習をするのか、その理由を記入させる。
- 「読む」「書く」「話す・聞く」学習の必要性に気付いていない子どもには絵カードを使って考えるようにさせる。

学習計画を立てる際は、「読む」「書く」「話す・聞く」学習の順序や大体の時間数を「はなのみち」での学習経験を生かして、教師と一緒に話し合うようにする。



子どもたちが単元の見通しをもち、学習計画を立てることができたことを賞賛するとともに、他の学習においても活用できることを知らせる。また、いろいろな動物の図鑑や本を紹介することで、読書に対する興味・関心を高めるようにする。